

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みかづき発寒		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 3日		～ 令和7年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数) 33
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 20日		～ 令和7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 24日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個性や強みを伸ばす支援方針	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの得意なことを見つけ、自己肯定感や成功体験を積み重ねる支援を重視。 ・苦手なことばかりに焦点を当てず、肯定的な動機付けで主体的な挑戦を促している。 ・5領域(健康・生活運動・感覚認知・行動言語・コミュニケーション・社会性)ごとに支援内容を整理し、個々のこどもに合わせたプログラムを提供。 	支援内容をさらに個別化・明確化するため、5領域に沿った評価項目や計画の整理を進める。
2	安全管理と保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・安全計画に基づく支援体制を整え、職員間で情報共有を徹底。 ・日常の情報は送迎担当職員が、重大な事故やトラブルは管理者を通じて保護者へ連絡する体制を確立。 ・地域開放や研修会、他事業所との連携、後進育成など、地域とのつながりを重視している。 	活動や遊びの選択肢を増やし、こどもが主体的に挑戦できる環境をさらに充実させる。
3	職員の専門性向上とチーム支援体制	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種(保育士・心理士・理学療法士・言語聴覚士等)でアセスメントを行い、統一した支援方針を実施。 ・ケース検討、研修会、BSC(バランス・スコアカード)を活用し、職員の自己評価とフィードバックによる質向上を図っている。 ・継続的な研修や事例検討を通して、チーム全体の支援力を高めている。 	保護者への情報共有や地域連携イベントの方法・頻度を見直し、より理解・協力を得られる仕組みを整備する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者への情報伝達の差	重大な事故やトラブルは管理者経由で連絡される一方、日常の情報は職員により共有方法が異なる場合がある。	連絡フローや記録方法を明確化し、必要に応じて職員も補足情報を保護者に伝えられる仕組みを検討。
2	自己決定支援の制約	人数や活動時間の制約により、こどもが自由に選択できる機会が限られる。	時間割や活動内容の工夫、職員の声かけで主体性を引き出し、自己決定支援をさらに充実。
3	職員間での経験や理解度の差	新規職員や非常勤職員は計画や支援方針の理解が不十分な場合がある。	ケースカンファレンスや定例会議、研修・マニュアル活用により理解定着を促進し、支援の質を均一化。